

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム百万遍 (2F)		
所在地	京都市左京区田中門前町103-27		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人員不足の中でも、事故を未然に防ぐ取り組みを継続している。 ヒヤリハットの提出、管理者5件以上、常勤2件以上、非常勤1件以上を毎月全員提出することで、不適合が極端に減っている。</p> <p>職員間の人間関係が良好であり、退職者が少ない。</p> <p>プリセプティ、新卒の受入れ、4年連続、新卒者の退職も無く(1名は看護学校に進学)新人職員が育っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>京都市内の主要幹線道路の一つである東大路通りから少し入っただけですが、寺社に囲まれているためか静かな環境にあります。それに触発されるかのように、きめ細やかに、ご家族や職員からの要望にも耳を傾けています。それは、ご家族や職員が話づらい雰囲気を作らないようにと心を砕いているからです。入居者が居心地よく、その人らしく暮らせるようにとの願いを実現するように励んでいます。入居者への声掛けひとつにしても、穏やかに、丁寧に、ゆっくりと、そのきめ細やかさを発揮するように努められていました。また、リスク管理も徹底されており、職員の定着率も高く、教育も行き届いているので、更なる発展を期待しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に、唱和している。 事業所の理念を理解し、目標や課題を皆で話し合う場を持ち、目標や課題を共有する。	旧ホームがあった出町柳から当地に移転してからも、ホーム独自の理念である「地域と共にその人らしく」を事務所内に掲げ、職員間で共有し、地域交流に於いても実践できるよう努力されています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所や幼稚園、新しい地域の幼稚園やスーパー、美容院の方や、地藏盆等に参加したり、継続して地域の方との交流を深めている。	身近にある施設やイベントに関わるよう努められています。ホームの利用者が参加できるかどうか確認し、参加できることには積極的に対応されています。また、地域の方からの来訪もあり地域交流を深められています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、グループホーム主催の秋祭りに1階のデイセンターと協力し、デイセンター利用のご家族を中心とした認知症サポーター講座の開催を予定している。地域包括からの	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し細かく報告し、意見交換を盛んに行っている。今年度は、町内会長も仕事で参加できない状態であるが、ご家族は、参加予定がある。	運営推進会議では、ホームの活動や行事報告などイベントの発信に努力されています。中には、求人広告や秋祭りの宣伝まで回覧板やロコミに匹敵するほどの発信力です。ただ、ご家族の出席が少ないので会議の内容は報告するよう努めています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括との連携を密にとり、情報を得ている。	法人の方針として、運営推進会議の議事録は必ず区役所に持参するようになっています。また、行政にホームのことを知っていただくために、声掛け訓練のお手伝いに職員が参加したりして連携を深めています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。又、研修にて身体拘束撤廃への取り組みを学んでおり実践している。昨年、ご家族の強い要望により、夜間身体拘束を行ったが、こまめに検討し、早期に、代替にかえた。	法人本部が主催する研修に参加し、ホーム内で伝達研修を行い、参加していない職員に対してもカンファレンス等を通じて全職員への周知徹底されています。不適切な声掛けなどがあつた際には、その都度管理者や職員間で互いに注意しあうようになっています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修もあり、法人内で、虐待等についての職員アンケートも行われた。 身体チェックシートを用いて行っている。 あざ等を発見時には、不適合を上長に報告し原因追究、改善や防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しておられる利用者様もおられるので、肌で学ぶ機会が多い。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に地域連携の職員や管理者、リーダーが細かく説明し、理解が得られていない部分に関しては納得いかれるまで説明をしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査の実施を行っている。アンケート結果の中で、早急に改善できる事は、早急に改善に取り組んでいる。面会に来られた際にもご指摘等があれば改善に向けて取り組んでいる。	同法人ホームの中でも、ご家族の面会頻度は高く、なた利用者自身でも直接意見を言われる方が多く、言いやすい環境づくりに腐心している賜物と思われれます。アンケートで出てきた意見などについては、申し送りノートなどを通じてスタッフ間で共有できるように努めています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りの際に話せる機会を設けている。個別に話しを聞くこともある。	カンファレンス時に職員からの意見を募ると共に、他のスタッフの体面上、意見を言い辛いことがあると思われる時には、日常の勤務時に管理者からさりげなく聞き取るようにしています。年2回の個人面談の際にも提案や改善要望などを聞き取っています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、個人の実績によって給与水準を決められている。有休や希望休が取得しやすい職場環境を作っている。休憩をとる様に促している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画をたて研修に参加している。不参加の職員には、伝達研修をしている。キャリアパスや法人内での研修を全職員が受けている。プリセプティ制度により新卒が入職し、相互の育成の場となっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	カンファレンスに参加し交流をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはご本人からの要望を取り入れている。場合によっては、ご本人にケアプランの説明を行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接の場にて要望を伺い、ケアプラン作成時にも要望を反映している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他業種(福祉用具等)との連携があり、必要としておられるサービスを提供することができる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気、環境であり、共に生活をしているというスタンスを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの些細な情報が有効であり、ケアの指針を示して下さるので、お便りや面会時にご本人の様子を伝え情報交換をしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族様の面会は定期的であり、個別外出にて馴染みの場所に出かけるようにしている。	面会が多く、2週間に1回のペースで来られているご家族もあり、入居者が若い頃に行っていた馴染みの場所等ヒアリングもし易く、ご家族との協力で一人ひとりの状況に応じた支援ができるよう工夫されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に調理や洗濯物を畳んだりという家事を行ったり、散歩に行ったりと他の利用者様と関る機会を多く作っている。又、フロアーの交流ももっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった利用者様のご家族から相談があれば、いつでも連絡が取れる準備は出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接で嗜好や趣味等を伺っている。ご本人様からが困難な場合はご家族様から情報をいただいている。入居後はご本人様との会話の中からも希望を引き出せることもあり把握に努めている。	入居時のアセスメントに加え、頻繁に面会に来られるご家族からの意見が多く、利用者本人にとっての情報が得易い。利用者本人からの要望等については、体調が良い時に汲み取るよう努力しています。しかし、記録に残っていないので詳しい情報は管理されていませんでした。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方を観察し、記録に残しスタッフ間で共有している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様から話を聞き、主治医・訪問看護師、訪問マッサージ師等と連携し、その情報や意見等をふまえケアプランを作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、大きな変化が無ければ1年で見直しをしていますが、状況に変化があった場合には随時見直しを行っています。主治医や訪問看護師などから指示、助言があった場合にも即時ケアプランに反映させ実施するようにしています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中で変化を見つけた事、気付いた事を記録に残し、スタッフ間で共有している。ご本人の希望をお聞きしたり、ご家族様と相談したりして、個別外出支援を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、随時確認し、要望に応えられる様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の地蔵盆への参加や、地域の保育園での行事に参加し地域の方との交流を図っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続も可能であると伝えており、継続的に受けておられるご利用者様の受診対応はご家族にお願いしているが、状態によってはスタッフも付き添いその方の情報を医師に伝えている。協力医の往診は月2回あり、24時間連絡が出来る体制を取っている。歯科医の往	入居時にかかりつけ医の継続と協力医への変更について、メリット・デメリットをそれぞれ説明の上、ご家族・本人の希望を聞き入れています。当ホームでは、2名の方が従前のかかりつけ医を継続されています。協力医同様24時間対応をしています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が健康管理にいられているのでその時に報告や相談を行っている。緊急時は電話にて連絡、相談をすることもある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟スタッフに状態を伝え、病院の相談員とも連携を図り、情報交換をしている。病状や退院の連絡を細やかに受けている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針の説明を行っている。ご利用者様のADLが落ちた場合は主治医、訪問看護師、ご家族様との話し合いの場を設けている。	重度化対応の指針を作成し、看取りのみの契約書を用意して、入居時に説明を実施しています。法人の研修に参加し、万に備えていたので、今年になって初めて看取った入居者様には如何に本人にとって安楽か、身体の衛生面などにも意識して対応できました。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	3年毎、職員全員が、普通救命講習を受講している。消防訓練時等にも消防署員に聞き指導していただいている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、消防訓練を実施している。その内、1回は夜間想定。その他、毎月、事業所独自で消防訓練を行っている。	地域の特性(周囲がお寺やスーパーマーケットなどの店が多く一般民家がほとんどないこと)により町内会が不活発です。そのため、防火訓練に地域の参加は得にくい状況です。しかし、年2回の大きな消防訓練のほか、2、3階のグループホームは2ヶ月に1回、通報や避難経路確認も行っています。備蓄品として、お水は各階1日分(6本×3箱)を確保しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを損ねることのない様に接している。又、利用者の意思を尊重できる選択肢を提供している。利用者様にたいする言葉遣いには、特に注意をしている。	当ホームにとって前年から1年間を通じての改善課題である「常に丁寧な言葉遣いができる」について、入居者一人ひとりに話し言葉が通じるように、丁寧に、ゆっくりと、周囲を不快にさせないよう抑え気味に、ワンクッションをおいて話してほしいと、職員全員にカンファレンスなどで理解を求め実行でき
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じてご本人の思いがわかる様に関わっている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思確認を怠らない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期に美容院を利用しており、好きなオシャレが楽しめる様に支援をしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と一緒に確認し献立を考え、ご利用者様、職員が一体となって食事作りをしている。何をすることも一緒に心をかけている。	食事だけでなく、お菓子作りの上手な職員がいるので、手作りおやつを利用者と一緒にメニューを考えたり、食材の下ごしらえや盛り付けなどにも興味をもって携わっていただいています。準備作業を通じて、職員と入居者が一体感を感じるようになってきました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がなかなか自らで積極的に摂取できない方は、水分チェック表を利用し職員間で共有、こまめに促し実践できている。その人にあった、時間やペースを重視して支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自身でしていただき、磨き残しなど仕上げは職員がお手伝いさせていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の今在る状態をしっかり把握し職員間でもしっかり話し合い、その方が一番心地よく生活できるよう支援しているが、自立にむけた支援は出来かねている状態である。	目立歩行不安定の方は転倒リスクがあるのでトイレ排泄の管理を徹底させています。排泄チェック表を作成し、定時での排泄時間のほか、入居者のしぐさなどに目配りして、プライバシーに配慮しつつ目安で声掛けしたり、気づけるように努めています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、睡眠は勿論、体操や散歩などで身体を動かし、出来るだけ下剤に頼らないよう心がけている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴のお好きな利用者様には出来る限り毎日入っていただき、気分良く過ごしていただいている。	通常は週2回の入浴を基本とし、それ以上に入りたい意思表示がある方には入ってもらおう心掛けています。身体チェック技能を磨き、体調不良の際は清拭に変えるなど臨機応変に対応されています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の十分な活動の促しや、利用者様の生活習慣、睡眠習慣にそって、夜間帯にも水分摂取や傾聴などしながら安眠、休息を促している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、薬の内容等がわかるようにしている。又、連絡ノートや申し送りで変更等を周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯等個人の得意分野を生かせるように支援している。散歩・レク・買い物等のお誘いし気分転換にも努めている。特に個別レクは、個別性を重視して行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ、朝散歩に出掛けるようにしている。又、美容室、買い物等希望があれば、随時外出の支援している。	車イスでの外出が増えており、ホームに隣接する寺院(百万遍知恩寺、如意寺)に出掛けたり、近隣の京大キャンパスには許可をもらって散歩しています。京大の馬術部も近くにあるので刺激をもらって帰って来ることも多いようです。行事によっては家族の参加もできるので、気分転換できるように配慮しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より小口現金をお預かりし厳重に保管している。買い物の希望があればご家族様に許可を得て一緒に買い物に行っている。ご自分で財布をお持ちの方は使われた金額を職員が把握し、記録に残しご家族様にも伝える。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族様やご友人に連絡を取って頂けるようにお電話をお貸ししている。携帯電話をお持ちの方には使い方も支援している。又、季節のお手紙等も出して頂けるように支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快な思いをされないように清掃に努めている。壁飾りや生花を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。アンケートを実施し、特に臭いに関しては、すでに改善を行っている。	年1回の家族アンケートから改善事項や要望事項を吸い上げ、共用空間には四季を通じての変化を感じるような飾りや入居者の健康管理に直結するような備品、例えば悪臭に対する芳香剤などを設置して心地よい生活が維持できるよう努めています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く配置し皆様が話し易く関わり易い環境が整えている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、家族の写真や人形等持って来られている。	入居時には家族の写真や思い出の品々を持参してもらおうよう、説明していますので、各居室は個性的な、その人らしく、心地よく過ごせるように努めています。ご家族にも面会時には馴染みのものを持参していただけるようご案内しています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて、環境整備に努めている。良く使われる物は決まった場所に置き、自由に使用してもらっている。又、目線に物が入るように配慮している。	

-)です。]

ⅴ
次のステップに向けて期待したい内容
近くの寺で、大学の落語研究会の寄席をやっているということなので、1階のサービスと共に、当施設内での寄席を実施依頼されては如何でしょうか。
運営推進会議が金曜日のみ開催の理由は、土日では、地域包括センターの職員の出席が無理の為です。ご家族の参加が難しい状況を考えると、年1, 2回でも土日開催を企画されては如何でしょうか。

五
次のステップに向けて期待したい内容
/
/
/
/
/

五
次のステップに向けて期待したい内容
/
/
/
/
/
/
/

五
次のステップに向けて期待したい内容
面会時にご家族からの話が聞きやすい状況を作られていますが、その内容を聞くだけで記録に残されていません。今後記録を残し、職員間で情報を共有されては如何でしょうか。

五
次のステップに向けて期待したい内容
落語研究会の学生さんと信頼関係を築き、避難訓練に参加依頼し経験を積んでもらい、万一の際には地域ボランティアとしてサポートしてもらうのはどうでしょうか。また近隣の障がい者施設や高齢者施設との連携を模索されては如何でしょうか。

五
次のステップに向けて期待したい内容

Ⅱ
次のステップに向けて期待したい内容
/
/
/
/

五
次のステップに向けて期待したい内容
/
/
/
/

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム百万遍(3F)		
所在地	京都市左京区田中門前町103-27		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員の人間関係が良好であり、退職がない。</p> <p>ヒヤリハットの提出を義務化しており、重大事故がなく、事故予防に努めている。</p> <p>利用者様の状態に差があるが、職員ペースにならない様、その方のペースにあわせるケアを心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2Fと同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和している。 事業所の理念を理解し、目標や課題を皆で話し合う場を持ち、目標や課題を共有する。	2Fと同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全地域の保育所や幼稚園、新しい地域の幼稚園やスーパー、美容院の方や、地蔵盆等に 参加させていただき地域の方と交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の毎年の開催やグループホーム主体ではないが、依頼があれば認知症の対応について話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し細かく報告し、意見交換を盛んに行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括との連携を密にとり、情報を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。又、研修にて身体拘束撤廃への取り組みを学んでおり実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修もあり、法人内で、虐待等についての聞き取り調査があり、その結果の改善策として 身体チェックシートを用いて行っている。 あざ等を発見時には、不適合を上長に報告し原因追宷、改善や防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しておられる利用者様もおられるので、肌で学ぶ機会が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に地域連携の職員や管理者、リーダーが細かく説明し、理解が得られていない部分に関しては納得いかれるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査の実施を行っている。面会にいられた際にもご指摘等があれば改善に向けて取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りの際に話せる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、個人の実績によって給与水準を決められている。有休や希望休が取得しやすい職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや法人内での研修を全職員が受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	カンファレンスに参加し交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはご本人からの要望を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接の場にて要望を伺い、ケアプラン作成時にも要望を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他業種(福祉用具等)との連携があり、必要としておられるサービスを提供する事ができる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気、環境であり、共に生活をしているというスタンスを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの些細な情報が有効であり、ケアの指針を示して下さるので、お便りや面会時にご本人の様子を伝え情報交換をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族様の面会は定期的であり、個別外出にて馴染みの場所に出かけるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に調理や洗濯物を畳んだりという家事を行ったり、散歩に行ったりと他の利用者様と関わる機会を多く作っている。又、フロアーの交流ももっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった利用者様のご家族から相談があれば、いつでも連絡が取れる準備は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接で嗜好や趣味等を伺っている。ご本人様からが困難な場合はご家族様から情報をいただいている。入居後はご本人様との会話の中からも希望を引き出せることもあり把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方を観察し、記録に残しスタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様から話を聞き、主治医・訪問看護師、訪問マッサージ師等と連携し、その情報や意見等をふまえてケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中で変化を見つけた事、気付いた事を記録に残し、スタッフ間で共有している。 ご本人の希望をお聞きしたり、ご家族様と相談したりして、個別外出支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、随時確認し、要望に応えられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の地蔵盆への参加や、地域の保育園での行事に参加し地域の方との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続も可能であると伝えており、継続的に受けておられるご利用者様の受診対応はご家族にお願いしているが、状態によってはスタッフも付き添いその方の情報を医師に伝えている。協力医の往診は月2回あり、24時間連絡が出来る体制を取っている。歯科医の往診もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が健康管理にいられているのでその時に報告や相談を行っている。緊急時は電話にて連絡、相談をすることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟スタッフに状態を伝え、病院の相談員とも連携を図り、情報交換をしている。病状や退院の連絡を細やかに受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針の説明を行っている。ご利用者様のADLが落ちた場合は主治医、訪問看護師、ご家族様との話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、普通救命講習を受講している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、消防訓練を実施している。その内、1回は夜間想定。その他、毎月、事業所独自で消防訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを損ねることのない様に接している。又、利用者の意思を尊重できる選択肢を提供している。利用者様にたいする言葉遣いには、特に注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じてご本人の思いがわかる様に関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思確認を怠らない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期に美容院を利用しており、好きなオシャレが楽しめる様に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と一緒に確認し献立を考え、ご利用者様、職員が一体となって食事作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がなかなか自らで積極的に摂取できない方は、水分チェック表を利用し職員間で共有、こまめに促し実践できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自身でしていただき、磨き残しなど仕上げは職員がお手伝いさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の今在る状態をしっかり把握し職員間でもしっかり話し合い、その方が一番心地よく生活できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、睡眠は勿論、体操や散歩などで身体を動かし、出来るだけ下剤に頼らないよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴のお好きな利用者様には出来る限り毎日入っていただき、気分良く過ごしていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣、睡眠習慣にそって、夜間帯にも水分摂取や傾聴などしながら安眠、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、薬の内容等がわかるようにしている。又、連絡ノートや申し送り変更等を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯等個人の得意分野を生かせるように支援している。散歩・レク・買い物等のお誘いし気分転換にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、且つ利用者様の体調の良い日には散歩等の声かけを行い、外出を促している。 希望があれば買い物の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より小口現金をお預かりし厳重に保管している。買い物の希望があればご家族様に許可を得て一緒に買い物に行っている。ご自分で財布をお持ちの方は使われた金額を職員が把握し、記録に残しご家族様にも伝える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族様やご友人に連絡を取って頂けるようにお電話をお貸ししている。携帯電話をお持ちの方には使い方も支援している。又、季節のお手紙等も出して頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快な思いをされないように清掃に努めている。壁飾りや生花を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。アンケートを実施し、特に臭いに関しては、すでに改善を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く配置し皆様が話し易く関わり易い環境が整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、家族の写真や人形等持って来られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて、環境整備に努めている。良く使われる物は決まった場所に置き、自由に使用してもらっている。又、目線に物が入るように配慮している。		